マンション問題の「千代田区長」が血税ウン十億円無駄遣い

vol. 84

往々にして、地方自治体の首長が専横的なのは、「大統領制」と同様の「二元代表制」だからか。

ここ最近も、地方自治体の首長による不祥事が相次いだ。市庁舎内に私物の家庭用サウナを持ち込んだ大阪・池田市の冨田裕樹市長が「公私混同」を問われ、同じく堺市の竹山修身前市長は政治資金収支報告書への2億3000万円を超える記載漏れで、罰金100万円を科された。さらに、社会福祉協議会の役員人事に不当介入した群馬・渋川市の高木勉市長は、強権的な政治手法に批判の目が向けられている。

永田町や霞が関、さらに丸の内といった政治、行政、ビジネスの中枢機能を備える、東京・千代田区。その首長の石川雅己区長にも、疑惑が持ち上がっているのはご存じの通りだ。

事業協力者住戸

疑惑の第一報は2020年3月、NHKによって伝えられた。石川区長は18年2月に妻、次男と共同名義で千代田区三番町の高層マンションの一室を「三井不動産レジデンシャル」から1億円超で購入した。ところが、その一室は地権者などに割り当てられるはずの「事業協力者住戸」だった。もともと、三井不動産レジデンシャルのマンションは区から高さ制限緩和の許可を受け、上限とされる50㍍を10㍍上回る高さで建てられていた。その許可の見返りに、石川区長は抽選倍率の高かった人気マンションの優先購入という便宜を図られたのではないかと見られたのである。

すぐさま、区議会は百条委員会を設置し、「億ション優先購入問題」の調査に乗り出した。百条委員会の尋問に、石川区長は「知人を通じて販売会社に確認したところ、当時は事業協力者住戸という説明はなかった」と証言。しかし、のちに「確認」の事実がないことが判明し、区議会から偽証罪などで東京地検に刑事告発された。一方、石川区長よりマンション購入にご執心だったとされる妻も、百条委員会への出頭を正当な理由なく拒否したため、東京地検に告発状を提出された。

百条委員会からの出頭要請後、妻は罪人扱いに堪え兼ねたのか、小林孝也議長らに抗議の手紙を送り付けている。その内容は、以下のようなものだった。

〈公共放送の筈のNHKがなんの検証もせず、一部の悪意あるシナリオを放送しました。(略)そもそもの発端は、内田茂(※都議会のドンと呼ばれた元都議)と政府関係者Zが小池都知事憎しで、(21年)7月の(都議会議員)選挙妨害を企てて、三井不動産副社長と起こした事柄のようです〉

続けて、家庭内暴力や金銭トラブル、政務調査費の不正使用の噂があるという区議5人の名前を挙げ、その5人がでっち上げの報道をさせたと主張している。

〈5人は区長選とか都議選に出たいのだと噂されています。出たければ堂々と立候補すればよいものと思います。自信がないので悪質なイヤがらせで区長をおとしめているそうです。(略)ついでに噂話をもう一つ。百条委でキャンキャンと騒ぐ女性区議と同僚区議の池袋ラブホテル目撃情報も有〉

もはや、妄想過多としか

言いようがない。

目下、夫婦揃って東京地検の捜査対象になっている石川区長だが、千代田区に残した「負の遺産」は億ション優先購入問題だけではなかった。実は、唖然とするような税金の無駄遣いもしていたのだ。

住民監査請求

かつて、田中角栄、中曽根康弘両元首相らが派閥事務所を構えていたことでも知られる、「砂防会館」。先だって、その隣の麹町保健所跡地に「仮住宅」が完成した。区営住宅や職員住宅などとして利用されていた四番町の建物が老朽化し、その建て替え工事に伴い、入居者の一時的な仮住まいが必要になったからだ。

区議会関係者によれば、「17年度から始まった〝建て替え工事プロジェクト〟は、総事業費が150億円に上りました。そのうち、仮住宅の建築費は当初、15億円が計上された。ところが、いつの間にか、東京メトロ〝永田町駅〟の出入り口が仮住宅の1階部分に設置されることになり、6億円が増額されたのです」

本来、1億5000万円以上の工事を発注するには、区議会の議決を経なければならない。しかし、増額は無断で行われていたという。

「出入り口の設置は、石川区長の主導で行われました。地元町内会から永田町駅における通勤時間帯の混雑緩和やバリアフリー化の要望が寄せられたことを理由に、石川区長が区の住宅課長に指示を出した。その結果、仮住宅の設計も変更しなければならなくなったため、工期は8カ月延び、2年5カ月を要しました」

当然、区議会の議決を経ていない6億円の支出は、区民からの「住民監査請求」の申し立てを招くことになった。それに対し、区の監査委員が19年1月に出した結論は違法状態ではあるとしたものの、区や区民に回復困難な損害を与えるような明白な事情が存在しないからと、工事の一時凍結までは認めないものだった。

「しかし、結果的に回復困難な損害が発生してしまいました。区議会で住宅課長はこれまで、出入り口の工事代金は区が一旦立て替えたのちに東京メトロに請求すると言い張っていた。しかし、それは真っ赤なウソでした。つい最近、区議の一人が東京メトロに訊いたところ、〝千代田区の工事ですから工事代金は千代田区が負担するのが一般的〟との説明を受けたのです」

お粗末なことに、千代田区は東京メトロとの間に何の取り決めもないままに、出入り口の設置工事を始めていたのである。

「それだけではありません。そもそも、出入り口と永田町駅のホームとを地下で繋ぐ、肝心の連絡通路の工事をどうするかが決まっていないのです。その工事には数十億円がかかると想定されていますが、東京メトロは負担するつもりはない。結局、大枚の血税を投じた挙げ句、ホームに辿り着けないエレベーター付きの縦穴を掘っただけ。なぜ、石川区長は無用の長物の工事を無計画に進めたのか、未だ、その理由は明らかになっていません」

その理由を石川区長に訊ねると、

「私が工事を主導したわけではありません」

とのこと。

次期千代田区長選が実施されるのは、1月31日。夫を尻に敷くともっぱらの評判の妻が、周囲に再出馬の可能性を否定している。石川区長は負の遺産を清算せずに、「謎の縦穴」を残したまま政界引退となる公算が大である。

Illustration 高柳浩太郎